

生田緑地自然環境保全管理会議 ニュースレター

令和5(2023)年7月10日(月) 参加者数 13名 今年度 第1回 自然会議が開催されました。

テーマ1

「生田緑地の生物多様性を考える市民部会」

現在活動中の市民部会（愛称：里山倶楽部）とは異なる新たな活動「生田緑地の生物多様性を考える市民部会」について (NPO)かわさき自然調査団 岩田団長から提案がありました。

【概要】

市民主体で、対象エリアの現地を観察しながら植生や棲息する生物を調べ、今後どのように管理していくか、意見交換をしながら考えていく活動です。現状の対象エリアは、ハンノキ林周辺など、かわさき自然調査団ピオトープ班及び里山倶楽部が主に活動している場所です。

この活動の先に見据えるものは「生田緑地の生物多様性に関心のある市民を増やす」「盗掘を減らす」「里山倶楽部の参加者を増やす」など市民への啓発と、自然会議が担当する「ナラ枯れ進行中の植生管理計画の検討」などです。



テーマ2

令和6（2024）年度 全国都市緑化かわさきフェア × 自然会議

Green For All
KAWASAKI
2024全国都市緑化
かわさきフェア
↑公式HP↑

令和6年、川崎市は市制100周年を迎えるとともに、全国都市緑化フェアの開催都市となっています。生田緑地は、全国都市緑化かわさきフェアのコア会場のひとつとしてイベントや企画の検討を進めています。

コンテンツのひとつとして、自然会議メンバーの協力を基にした企画について、日本緑化工学会（生物多様性緑化研究部会）井口氏から提案がありました。

【企画概要】

目的

川崎市にある企業の社員を対象に、企業市民の概念の理解を図り、「川崎市の中で、生田緑地＝特別に大事な場所である」という認識の向上と意識喚起を促す。生田緑地の持続可能な自然環境保全活動のパートナーとして、企業内SDG's、CSR部署、または福利厚生部門と連携していく仕組みを構築する。

内容

Step1（秋開催）「学ぶ・聞く」

SDG'sシンポジウムの開催、企業・若手職員の生田緑地現地見学会等

→Step2（春開催）「やってみて、考える」

→Step3（フェア後）「仕組みづくり」

テーマ3

「生田緑地における実生の山採りガイドライン」

本ガイドラインは、平成30年第4回自然会議にて保留となっていたもので、国土館大学磯谷氏から改めて発議、今回合議されました。

本来、人為による補植は、できる限り行わないことが望ましいですが、里山を構成する種の一部が減少しつつある今日において、やむなく補植を実施する場合の指針とするものです。

本文は『生田緑地公式HP→自然環境保全管理会議→ガイドライン』をご覧ください。

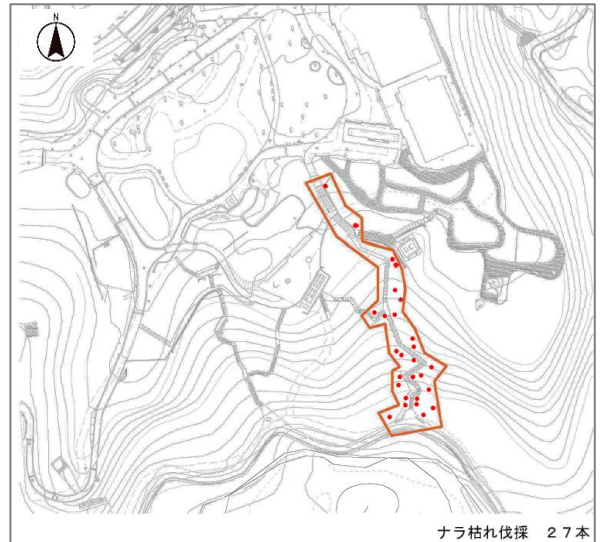


テーマ4

ナラ枯れ伐採 令和4年度報告・令和5年度予定

川崎市生田緑地整備事務所から、令和4年度伐採したナラ枯れ木について、伐採箇所と本数（計267本）の報告がありました。令和5年度の伐採予定の箇所と本数についても共有されました。

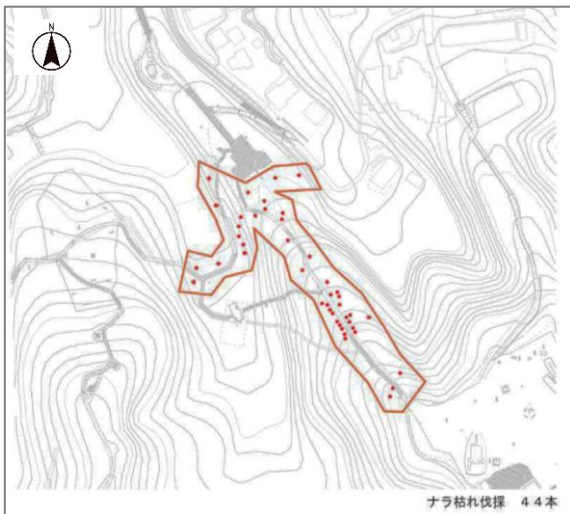
あじさい山



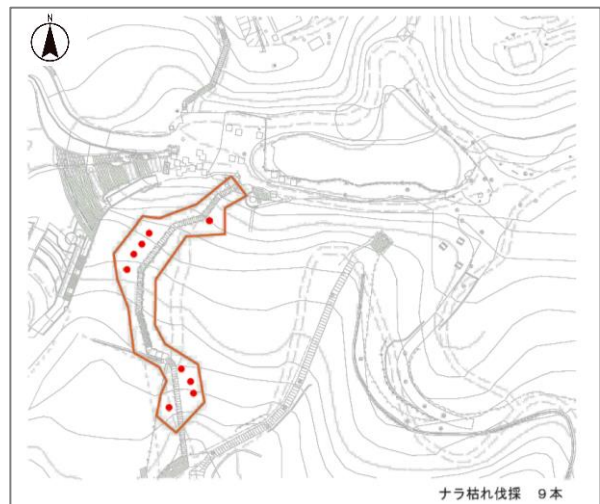
令和5年度伐採予定の主なエリア

※この他、初山地区、東生田2丁目地区でも伐採予定
※箇所・本数は変更になる可能性があります

戸隠不動尊跡～枅形山広場



奥の池～梅園



テーマ5

日本民家園運営基本方針における植栽の位置付け

日本民家園では、平成30(2018)年「文化財保護法」改正、令和4(2022)年「博物館法」改正を受け、将来にわたる活動の軸として運営基本方針を定める予定です。その中で「植栽方針」について、『植栽』だけではなく『植生』という概念についても定着を目指すことや、生田緑地憲章に配慮したエリアを設けること等が会員から提案されました。



テーマ6 生田緑地ビジョンの改定

生田緑地のめざすべき将来像を示す構想・生田緑地ビジョン（平成23年策定）。本ビジョンの改定に向けて、川崎市担当者から共有がありました。生田緑地の価値を次世代に繋ぐため、地域の方々をはじめ広く発信していくことが課題です。

